

第63回全国スポーツ推進委員研究協議会

- 1 期 日 令和4年11月17日(木)～18日(金)
- 2 会 場 1日目<開会式、表彰式、講演、情報提供、シンポジウム>
・YMITアリーナ メインアリーナ
2日目<分科会>
・【第1分科会】YMITアリーナ メインアリーナ
・【第2分科会】栗東芸術文化会館さくら 大ホール
- 3 主 催 スポーツ庁、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合、
滋賀県スポーツ推進委員協議会、滋賀県、草津市教育委員会
- 4 主 管 第63回全国スポーツ推進委員研究協議会滋賀県実行委員会
- 5 大会テーマ「わた SHIGA 輝く未来のために」～スポーツでつながる喜びを～

6 内容

【1日目】11月17日(木)

○歓迎ムービー 12:00～

○開会式 12:30～13:00

- | | | |
|-------------|--------------------------------------|----------------|
| (1) 開会の言葉 | 滋賀県実行委員会会長 | 山本 博一 |
| (2) 挨拶 | スポーツ庁スポーツ総括官 公益社団法人全国スポーツ推進委員連合会長 | 大西 啓介 阿達 雅志 |
| (3) 歓迎のことば | 滋賀県知事 草津市長 | 三日月大造 橋川 涉 |
| (4) 登壇者紹介 | | |
| (5) 次期開催地挨拶 | 青森県スポーツ推進委員協議会会長 | 目澤 伸一 |

○表彰式 13:00～13:40 (富山県受賞者6名・1団体、感謝状1名)

- | | | |
|---------------------------|----------------|------------|
| (1) 文部科学大臣表彰 | 北村勢津子(富山市) | 石田 智久(砺波市) |
| (2) 全国スポーツ推進委員連合表彰 | | |
| ・優良団体表彰 | 入善町スポーツ推進委員協議会 | |
| ・スポーツ推進委員功労者表彰 | 該当なし | |
| ・30年勤続スポーツ推進委員表彰 | 水嶋美津子(朝日町) | 浄土 節子(黒部市) |
| | 福嶋 義明(氷見市) | 和泉 信子(富山市) |
| (3) 全国スポーツ推進委員連合賛助会員感謝状贈呈 | 宮塚 功(南砺市) | |

○講演 13:40～15:00

講師 宇田 秀生 氏

(東京2020パラリンピック トライアスロン競技PTS4 銀メダリスト)

テーマ 「今しかできないこと」

仕事中の事故により右腕を切断したのが、結婚後5日目という衝撃的な事実を聞かされた。隣で支えてくれた妻あきさんの「なんとかかなるよ」という言葉のおかげで前向きに生きていくことができたそうである。リハビリで始めた水泳からトライアスロンへ挑戦し、2年後には地元滋賀県での大会に出場し、本格的にレースに取り組んだ。国際大会にも出場し何度も好成績を収め、東京2020パラリンピックでは見事、銀メダルを獲得するなど、現在も活躍している。この日は持参した銀メダルを会場の方へ回し、「みなさんにも、触れて感じてもらってほしい」とサービス心も感じられた。

パラトライアスロンを選んだ理由は、幼いころからサッカーをしており、走ることも得意であったことや、この種目が2016年のリオパラリンピックの正式種目になり、まだ日が浅く「これならメダルが狙える」という考えもあったからだそうである。

トライアスロンは、3種目あるので、それぞれの練習をする必要がある。宇田氏は1月に、スイム100～150km、バイク1000～1500km、ラン250～300kmというハードな練習量をこなしている。また遠征の際などは荷物が多く、一人で運ばなければいけないので大変とのことだった。

東京2020パラリンピックについては1年延期になったことで、いい練習が積めたとのこと。その時に感じたのは、「どういうトレーニングをするかということより誰とトレーニングするか」ということ。志の高い人と一緒だとモチベーションのモチ方が違い、上しか見ていないため強くなれた。当日のレースでは、スイムで8位と出遅れたが、バイクで3位、ランで2位に上がりゴールした。ゴール後には涙が見られたが、これまで頑張ってきたことが形になったことへのうれしさと、これまでの支えに応えなければいけないというプレッシャーから解放されたということがあった。パラリンピックを通して、たくさんの方が注目してくれ、自分のことやトライアスロンのこと、パラスポーツのことを知ってもらえたのは、いい機会だったと思え、うれしいとのことだった。

これからの目標は、競技者として2024パリでいい成績を残せるよう精一杯がんばることで、その後は、障害者やパラスポーツのことなどを多くの方に知ってもらい、障害を持った方がスポーツを始めるきっかけになってほしい。そのためには、自分自身が楽しんでいくことが一番大事だと思うのでいろんな方とかかわりながら、少しでもいい経験を積んでいきたいと締めくくった。

○シンポジウム 15:35～16:55

テーマ 「わた SHIGA 輝く未来をつくる」

| | | | |
|----------|----------------|----|---------|
| コーディネーター | 早稲田大学スポーツ科学学術院 | 教授 | 木村 和彦 氏 |
| シンポジスト | 立命館大学スポーツ健康科学部 | 教授 | 長積 仁 氏 |
| シンポジスト | 京都産業大学現代社会学部 | 教授 | 奥田 睦子 氏 |
| シンポジスト | 滋賀県スポーツ推進委員協議会 | 会長 | 山本 博一 氏 |

世界的な規模で新型コロナウイルス感染症の拡大が急速に進み、スポーツ活動は「不要不急」のものであるかの如く扱われた。個人では心身の健康保持への悪影響や閉塞感のまん延、社会ではスポーツを通じた交流不足など様々な影響が及んでいる。一方で、コロナ禍において開催された東京2020オリンピック・パラリンピックでの多くの感動をはじめ、このような状況下においてスポーツが私たちの生活や社会に活力を与えるなど優れた効果を及ぼす重要な価値を持っていることも再認識された。

このような中、新たな時代におけるスポーツ文化の成熟を目指し、長積氏からはスポーツマネジメントについて、奥田氏からはスポーツがはぐくむ共生社会について翌日の分科会を見据えて、それぞれの立場から意見発表・意見交換を行った。

○富山県表彰伝達式・情報交換会 18:30～20:30

会場：ホテルポストプラザ草津

サウスウイング6F ケネディルーム

参加者：56名

(1) 表彰伝達式

- ・文部科学大臣表彰
- ・全国スポーツ推進委員優良団体表彰
- ・全国スポーツ推進委員連合30年勤続表彰
- ・感謝状
- ・謝辞

(2) 情報交換会

- ・あいさつ
- ・歓談



【2日目】11月18日（金）

○分科会 9：30～11：45（第1～2分科会）

【第1分科会】 YMIT アリーナ メインアリーナ

テーマ：「わた SHIGA 輝く未来をはぐくむ」

～スポーツを通じた with コロナでの地域社会の形成～

コーディネーター：立命館大学スポーツ健康科学部

教授 長積 仁 氏

発表者：徳島県：佐那河内村産業環境課

課長補佐 安富 圭司 氏

株式会社ルネサンス海外事業推進部

次長 阿部 洋介 氏

滋賀県：甲賀氏スポーツ推進委員会

委員長 山崎 隆司 氏

徳島県佐那河内村の観光地である大川原高原は、1000m級の高地で観光客が7～8月に集中していたが、コロナ禍で密集を避けるように季節を問わず来訪者が増えた。そこで大川原高原観光促進計画を策定し、社会実験の募集をしたところ、陸上団体から高地トレーニングのニーズがあった。これまで活用されなかった公有地がスポーツ・ツーリズムの可能性を提案できるチャンスと考えている。株式会社ルネサンスでは、スポーツクラブの運営を核とし、企業や健康保険組合の健康づくり支援や全国の自治体の介護予防事業の受託、オンライン事業など健康分野におけるサービスを多岐にわたって提供している。既存の公共施設を有効活用できるように提案し、雇用を生み出したり新たなサービスを誕生させたりしている。



どちらも、新たに何かをつくる出すというよりも、そこにあるものを違う目線で見とらえ、活用することで、地域の課題を克服し、活性化させている報告だった。

【第2分科会】 栗東芸術文化会館さくら 大ホール

テーマ：「わた SHIGA 輝く未来をともに」

～スポーツを通じた共生社会の実現に向けて～

コーディネーター：京都産業大学現代社会学部

教授 奥田 睦子 氏

発表者：京都府：綾部市スポーツ推進委員協議会

会長 滝下香代子 氏

石川県：GENESIS 株式会社

代表取締役 別宗 利哉 氏

滋賀県：一般社団法人滋賀県障害者スポーツ協会

アドバイザー 川井 滋雄 氏

綾部市では、近隣の舞鶴市、福知山市とともに、各市で考案したオリジナルニュースポーツを持ち寄り「誰もが気軽に楽しくできるニュースポーツ」をコンセプトに体験実技研修を実施。また、京都市が初級障害者スポーツ指導員の資格取得を進めたことでパラスポーツへの興味関心が高まった。3市のオリジナルニュースポーツは、障害のある人もない人もできるスポーツとして多くの人が楽しんだ。滋賀県では「スペシャルスポーツの広場」として障害のある人もない人も一緒に楽しむイベントを開催。滋賀県の地理的な条件から障害者が1カ所に集まるのが難しいこともあり県内4カ所で開催したことで、より身近な地域でより多くのスポーツに親しめるようにした。



障害者と健常者を区別するのではなく、一緒に楽しめるスポーツ環境を整えていくことで、スポーツだけでなく日頃からつながっていく共生社会が築けるのではないかと感じた。

※研究協議会では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加制限をかけたため例年の6割程度の約3,700名、富山県からはスポーツ推進委員及び市町行政担当者あわせて56名の参加があった。